

国道36号 拡幅整備の促進

■現状と課題

国道36号は札幌市を起点とし、千歳市、苫小牧市、白老町、登別市を經由し、室蘭市を終点とする主要幹線道路として住民の生活や地域経済を支える、極めて重要な路線であります。

本路線は、登別市をはじめ周辺都市から大規模な工場や大型商業施設等が立地する室蘭市への通勤や買い物等で利用されるとともに、高度医療機関等への救急搬送ルート、室蘭港や苫小牧港と周辺都市との物流の基幹ルートであります。

また、登別市においては全国有数の温泉地である登別温泉を有するほか、大型レジャー施設が立地し、近接する白老町においても2020年に民族共生象徴空間（ウポポイ）が開設し、海外を含め道内外から更に多くの観光客が訪れることが見込まれる広域的な観光ルートを形成しているほか、周辺地域においては活火山である有珠山や樽前山、倶多楽があり火山災害時には、緊急輸送道路としての機能など、重要な役割を担っております。

登別市内においては、一部の区間において4車線化が実施されておりますが、登別港町・富浦町・幸町地区が2車線であり、朝夕の通勤時等に交通渋滞が生じているうえ、交通事故も多発している状況にあります。

これらのことから、2020年の民族共生象徴空間（ウポポイ）開設による交通量の増加を見据え、白老拡幅（苫小牧市～白老町間）整備後、引き続き登別港町・富浦町・幸町地区の4車線化拡幅整備の早期着手が必要であります。

■要望内容

●国道36号（登別港町・富浦町・幸町地区）の4車線化の拡幅整備



■事業効果

- 交通渋滞の緩和、交通事故の縮減
- 物流の効率化、観光ルートの強化、救急搬送の迅速化、住民生活の利便性向上
- 大規模工場等地域産業の生産性向上
- 緊急輸送道路としての機能向上